

平成25年度 第1回男女共同参画推進のための意見交換会

実施報告

墨田区では、男女共同参画社会の実現をめざし、毎年、あらゆる世代、企業、地域団体の方々と男女共同参画をより身近に意識していただくために、様々なテーマの下、意見交換会を行っています。今年度は学生を対象に、「現代社会の問題をベースに、男女共同参画社会とはどんな社会なのか」ということを日本と北欧のスウェーデンの現状から比較するセミナーを開催しました。引き続き、意見交換会ではセミナーの内容を聞いて、学生のみなさんの目線で男女共同参画社会についてグループ討議を行い、意見をいただきましたのでご紹介します。

日時：平成25年10月25日（金） 午後7時～9時

場所：墨田区役所 12階 123会議室

セミナー：『男女共同参画社会って何だろう？：日本とスウェーデンの現状から考える私たちの「ライフスタイル」』

世界有数の福祉国家として知られ、また、ワーク・ライフ・バランスの実現度が高い国としても知られているスウェーデン。セミナー講師が住むスウェーデンでは、育児休業中の所得保障を受けるため、両親がともに育児休業を取らなければならないといった制度が整っています。福祉を実現するため高い税金が課税されていることは有名な話ですが、その税金によって全ての福祉施策を充実させているわけではないことなど、さまざまな日本との違いを学びました。

【講師】



明治大学研究知財推進機構研究推進員
浅井亮子氏

意見交換会：『自分の個性を生かして、地域で活動したい！社会貢献したい！そんな学生のみなさん、声を聞かせて！～男女共同参画社会って、何だと思う？～』

男女共同参画社会とはどんな社会なのか、セミナーを聞いて感じたこと、気になることなど、学生のみなさんの目線で率直な意見交換会を行いました。概要は以下のとおりです。

【セミナー】

【グループ1】

- 日本とスウェーデンの医療について差があることに驚いた。
- 最近はおせっかいをやく人や、近所づきあいをすることが少なくなった。新しくやって来た人は町会に入りにくい。外から入ってきた人の受け入れ方法を模索すべき。
- スウェーデンのような高負担・高福祉を実現するのは難しい。日本においてはコストが低くて良い施策を取るべき。消費税のアップについても税金の有効な活用を明確にしなくてはならない。
- 福祉はハード面とソフト面がある。ハードの面では施設を作るのに費用がかかるが、ソフトの面、精神的な面では多大な費用をかけなくても良い。特に子どものころからの教育は大切だ。



【グループ2】

- セミナーで日本とスウェーデンの比較を話してもらったが、治安の問題や、税負担の高さから今は住みたいとは思わない。また、福祉施策においてスウェーデンモデルは良いと思うが、理想と現実にはギャップがあるのでは。

- 専業主婦・育休について、育児休暇制度が完備されているスウェーデンでは、専業主婦という意識がないことに驚いた。日本で働く女性を支援する制度がもっと充実してくれば、女性も育児休暇を取りやすいかもしれない。また、職場において制度が認められていないと、男性は育児休暇を取りにくいと思う。
- やはり将来的には自分も産休・育休を取得して職場復帰をしたいと考えている。
- 理想と現実のすり合わせがまだ難しい。
- 日本にとって、あるいは自分達にとって理想的なライフスタイルを考えると、スウェーデンはあくまでも学びたい、比較したい材料に過ぎない。あくまでも自分達の日常、日本という環境の中で制度や経済の動きを考えた方が良いのではないか。

【意見交換会】

(グループ討議)



(グループ発表)



【グループ3】

- スウェーデンは移民が多く、ワークシェアの考え方が定着している。しかし日本は産休が取れないし、働きにくい社会となっている。また、専業主婦の希望も多い。
- 日本では、会社がワークシェアを考えると雇用が少なくなる。専業主婦になりたいが、男性の給与が少ないので女性が働くことが必要であり、働かないと生活が成り立たない。主婦はいったいどういった方向に進むのか？
- やはり日本は男性社会であるから、女性に歩み寄る部分が少ないと思う。
- スウェーデンは個人主義という文化があり、しかも生産性が日本より良いと聞いた。そこは日本も見習うことがあるのではないか。
- セミナーでは、女性をどう変化させるかという視点が大きく、「男性はそこに寄り添わなくていいのか」というふうに関心を感じ、男性からの視点があまり見えなかった。

【グループ4】

- 日本とスウェーデンではクオリティオブライフに違いがあるが、国のシステムはそう簡単には変えられない。
- スウェーデンは社会保障制度が充実し、日本は健康保険制度が充実している。
- スウェーデンの相互扶助の範囲がすごく広いと感じた。
- まちづくりの視点から考えてみると、住民は与えられた環境に馴染まされていると思う。一部のデベロッパーが仕切っている状態なので、一人ひとりが自分の街のことに興味を持つ、税金がどんなところに使われているかといったことに関心を持つことが大切である
- セミナーを聞いて、日本から見るとスウェーデンは理想的だと思える制度を取入れているが、安易に日本に取入れるのは難しいのでは。日本に合った新たな制度や新たな解決策をこれから模索していく必要性があると思う。